



## (株)大和 静岡工場（農場）現状報告 平成 24 年 11 月号

今年も新茶から始まり、二番茶、台刈番茶、秋冬番茶と 4 回にも及んだ 1 年間の茶園摘採・荒茶製造は、10 月 9 日で全て無事終了致しました。

当農場では「力のある茶樹から摘み取った肉厚で緑の濃い茶葉からこそ、力強く旨いお茶ができる」との信念のもと、土壌作りから考えたお茶栽培に取り組んでいます。

収穫が終わった畑には、まず、天然有機質を加えた自家製肥料を施し、たっぷり栄養を与え理想的な土壌を作ります。そのためには、ススキなどの山草や堤防のカヤを刈り、それを細かく裁断して茶畑に隙間なく敷き詰める作業を行います。土から吸い上げたケイ酸をたっぷりと含んでいるので、土壌の保温力・保湿力・保水力・保肥力を高め、蓄積された養分は完全な天然肥料となります。

その後、静岡工場自慢の「もみがら堆肥」作りに入ります。ダンプカー 150 台分のもみがらと、米ヌカ、油粕を土壌有効微生物菌（VS34）と共にじっくりと発酵させます。

このもみがら堆肥の完成は 12 月末ですが、年明けの 1 月から茶園に施すと土壌中に微生物が増殖し、ふかふかな土壌となります。

このように美味しいお茶のための土づくりにこだわるのは、日本でも当農場だけと自負しております。来年の新茶に思いを馳せ、地味な仕事ですが確実性を持って、おいしいお茶造りに愛情を込め、毎日コツコツと茶園管理を行っています。



山草刈り【山草を刈り取ります】



【刈った草を細かく裁断します】



【茶畑に敷き詰めます】



もみがら堆肥【集められた、もみがらの一部】



【水分を加え攪拌して発酵させます】